

Weekly コラム

平成 27 年 6 月 30 日

〒541-0055 大阪市中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

空気＋水＝燃料

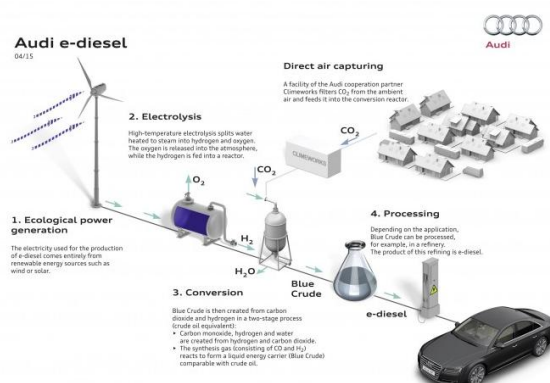
近年目覚ましい発展を遂げる自動車産業。世界屈指の自動車産業を誇る日本でも、より便利で、快適な、そして地球優しい自動車が開発され続けています。しかし、この進化する自動車と共に世界中で進化・研究が進んでいるのが燃料です。まだまだガソリンをはじめとする化石燃料が需要の大部分を占めていますが、最近ではエタノールや水素、電気など、様々なエネルギーが自動車に利用できるようになってきました。特に、日本では水素をエネルギーとした燃料電池車を国策として推進していることは周知の事実です。そんな中、ドイツの自動車メーカーのアウディが、空気と水から合成した自動車燃料を開発したという驚くべきニュースが入ってきました。

アウディから発表された燃料は、「e-diesel (e ディーゼル)」と言われるディーゼル燃料です。この「e-diesel」は二酸化炭素と水を高温で合成することで作り出します。具体的には、専用のプラント内で、水を800度以上に加熱し、その後の高温電気分解により水素と酸素に分解します、こうして分離した水素に高温で圧力をかけ、二酸化炭素と反応させることで「Blue Crude」という液体が精製されます。これをさらに改良して化石燃料に近い燃料となったものが「e-diesel」というわけです。この「e-diesel」は、単体で使えるだけでなく、ガソリンなどと混合して使用することも大きな特徴です。

日本で推進している燃料電池車は、水素を燃料としていますが、水素は一般的に扱いが難しい気体とされ、

日本でも輸送方法やインフラが問題視されています。さらに、水素を生成する過程で、二酸化炭素を排出せざるを得ないことから、完全にクリーンな燃料とは言えないとの指摘も散見されます。ところが、この「e-diesel」は、精製過程で二酸化炭素を利用し、さらに全工程でのエネルギー変換効率は70%を超えます。また、硫黄および芳香族炭化水素(原油に含まれる物質)を含まないにもかかわらず、高い発火性を備えています。

この「e-diesel」のような環境に配慮した燃料の開発は、今後さらに世界各国で加速していくと考えられます。日本では、水素を精製する方法や水素を供給するインフラ整備の充実と技術発展が急務とされています。こうしたことが進んでいかなければ、燃料電池車は、日本の一部だけでしか使われない「ガラパゴス・カー」になる可能性も否めません。ソフトとハードのバランスを取ること。これは簡単なことではありませんが、世界中が脱化石燃料という岐路にあると言っても過言ではない現在、是が非でも勝ち組に入って欲しいと願うばかりです。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、yasukouchi@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。